

が抱える大きな問題の一つである「貧富の差」が顔をのぞかせています。

外国ということに関わらず、未知の世界に足を踏み入れるというのは非常に勇気のいることなのかもしれません。しかし、それによって新たな世界が広がることも確かです。異なる環境に身を置くことで、それまで見えなかつたものが見えてきたり、違った角度から物事を考えることができるようになったり。そして様々な経験が自分の人間としての器を少しずつ大きくしてくれる。こんな成長を願った時、私の場合「自分の目で世界を見たい、自分の身体で世界を体験したい」という気持ちが湧き上りました。みなさんは10年後、20年後、どんな自分になっていたいですか?「意志あるところ道あり」です。“Be ambitious!”

中近東

アッサラーム アライクム! キーフクム?

シリア 養護 順所 祥恵

私はシリアの小さな村で、障がいを持つ人たちが今よりも生活を楽しめることを目指して村のボランティアたちと一緒に活動しています。障がいのある子どもの家を訪問し、子どもや家族から悩みを聞いたり、学習の手伝いをしたりしています。障がいのあるなしに関わらずこどもたちを集めてスポーツをしたり工作をしたりもしています。今後、ボランティアと一緒に勉強会もしていこうと思っています。

私の住む村はカフリーンという名前です。(きっと地図には載っていません)首都ダマスカスから車で40分くらいのところにある小さな村ですが、八百屋さんや食品を売るお店もいくつかあります。ですが買い物の必要はありません、ほとんど毎日近所の家や一緒に活動するボランティアの家で食事をご馳走になっています。炒めご飯にナッツをのせたもの、オクラをトマトソースで炒めたもの、日本の食事とはだいぶ違いますが日本人の好きな味です。とてもおいしいです!

ここは砂漠がたくさんあるところです。さえぎるものがない砂漠は風が冷たく寒さが厳しく感じます。北海道と違って家の中も外も同じような気温なのがつらい所です。それでも村の人たちの優しさを支えにとても元気に生活しています。アラビア語を話すこの国では、私も言葉の通じない障がい者です。ここに来て人に気持ちを伝える難しさと大切さを強く感じています。みなさんも周りの人の気持ちを耳で目で心で感じてくださいね。この人たちは下手なアラビア語を一生懸命聞いてくれます。

シリアの人たちは約束をするとき、必ず「インシャ アツラー」と言います。神が望むなら…という意味です。新しい発見とステキな出会いをたくさんして来年の春、北海道に帰ります。そしてみなさん元気に会いましょうね。インシャ アツラー!私は強くそれを願っています。



マルハバ

シリア 体育 渡辺 準

地域に根ざしたリハビリテーション活動(CBR)を推進するプロジェクトで体育、運動を取り入れたりハビリテーションを行っています。障がい児、者もできる運動を提供していますが、用具や環境が整備されていないので苦労しています。協力隊員としてどんな支援、協力ができるのか日々考案中ですが、身体を動かすことの楽しさ、気持ち良さ等を伝え、スポーツは誰もが分け隔て無く一緒に楽しめる事で自然にたくさんの友達をつくることができる!ということを理解してもらい地域(村)の発展、平和に役立てば嬉しいです。

「中東シリア」と聞くと年中暑いのでは?と思う方が多いと思います。確かに夏は40度前後まで気温が上がりますが、11月から2月頃まではとても冷え込みます。建物の多くはコンクリート造り、ソービア(軽油ストーブ)がとても旧式なため、部屋が暖まらず家中でもジャンバーを着ています。しかしこの国の人々の心はとても温かいです。夜になると毎日のように村の若者が私の家に集まり、話をしたり、言葉の勉強をしています。食事に招待してくれることも多く、アラブの家庭料理をよくご馳走になっています。

異文化の中で生活をするには、まずその国、人々を理解することが大切です。理解するには、たくさんのコミュニケーションが必要で、そのためには言葉の勉強も必要です。その内、いつの間にか日本を別の視点から見られるようになっています。日本の悪い点も含めて見直す事ができ、私は日本人だなあと実感したりします。これは国内でも友達をつくる時に必要な一種の技術だと思います。たくさんお話をしても、一緒に何かをして相手の気持ちを考えてみると、同時に自分も見つめ直してみると、違う面が発見できたりして楽しいでしょう。更に海外にも友達が欲しい!って気持ちになれば最高ですね。私もシリアでたくさん友達をつくって皆さんにも紹介したいと思ってます。一緒に友達の輪を拡げましょう!

アッサラーム・アレイクム

ヨルダン 理数科教師 舟木 勇司



首都アンマンにあるクイーン・ラニア教育工学センターというところで、理数科教師として活動しています。このセンターでは、教員研修並びに実験室の活性化に関するプロジェクトが動いています。今は、トレーナー候補として研修を受けている十数名の教員と共に活動をしています。先生方と一緒に授業案を作ったり、研究授業を

したり、実験ワークショップを開いたりしてきました。また、日本の授業をアラビア語に訳して紹介したりもしました。ヨルダンの先生方の知識は非常に高いのですが、日本の実験や授業に関する考え方を持っています。例えば、一週間の休みは土日ではなく、金土です。また、暦は2つあり、預言者ムハンマド聖遷の日から数えるイスラム暦では、今年は1428年です。一日5回、アザーンといつてお祈りを知らせる音がモスクから鳴り響きます。学校は昼休みなどではなく、10時過ぎに20分休みがあるだけです。15、16時頃には、家族揃って家で昼食を取るのが一般的のようです。基本的に女性は顔を隠すイシャールをかぶっていたり、バスでは前の方に女性、後ろの方に男性が乗るというように、男女がしっかり分かれています。特に、結婚式では、男性と女性は別々で、男性は花嫁姿を見ることはできません。

イスラム圏の国には、危険・テロというイメージがあるかもしれません。ですが、実際に来てみると危険とはほど遠い安全な暮らしがあります。犯罪は日本のように非常に少ないです。実際に来て感じることは、来てみないと分からないことが多いということです。街中を走っている車は半分くらいが日本車ですし、電化製品を始めとするメイド・イン・ジャパンの知名度は本当に高いです。その一方で、日本についてきちんと知られていないのも事実です。例えば、今だに着物で生活をしていると考えていたりする人もいます。そんなことを知り、ふと、逆に、私たちはどのくらい中東のことを知っているのだろうと考えたりします。みなさん、どうですか?